

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	佐藤千尋
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学教授 工学博士 砂原秀樹	
	副査	慶應義塾大学教授 経営学博士 (DBA) 石倉洋子	
		慶應義塾大学教授 博士 (政策・メディア) 稲蔭正彦	
		慶應義塾大学准教授 博士 (情報理工学) 南澤孝太	
		慶應義塾大学名誉教授 Ph.D. (地理学) 杉浦章介	

(論文審査の要旨)

佐藤千尋君の博士学位請求論文は「Adaptive Passage in a Shopping Mall: Calling to Drive Customers into Stores and Encourage Shopping」と題し執筆されたもので、全部で5つの章から構成されている。本論文は、音や光などの非物質素材とユビキタスコンピューティング技術を用いて、商業施設における購買経験に作用する、自然と店舗内に引き寄せられる通路をデザインした「Designカテゴリ」の研究である。

本研究では次の点で特筆すべき内容を持っている。

第1に、ベンヤミンのパサージュ論における、パリのパサージュの活気ある空間のデザインに習い、現代の人々が集まり購買経験の促進される空間のデザインに応用した点が特徴である。19世紀パリの中産階級市民に夢と希望を与えたパサージュが持つ五感に訴えてくる空間を捉え、音・光・香りなどの見えない素材を用いた建築を設計することで、人々の気持ちが高揚し購買を促進させる空間をデザインすることが可能であることを主張した。また、このように見えない素材を操るために、既存建築内に各種の小さなコンピューターを至る場所に埋め込むことによって、人の行動や状況に応じて変幻自在に五感に訴える素材を出力することができることが特徴である。

第2に、人間の行動は非合理的な判断の元に行われていると考える行動経済学の分野において、商業空間における来客者の行動デザインの一例として貢献することを元に、空間デザインをつくり上げている。購買行動に関する研究は情報技術・商業建築デザイン・マーケティングなど様々な分野で行なわれているが、そのすべてを網羅している。元来の商業建築空間は、経済学の原則である経済合理性の元にすべての人間は動いているという前提でデザインされているが、本研究ではその前提を取っ払い、魅力を感じる場所にこそ人間は集まるという主張を自らデザイン行うことで証明を試みた。

第3に、つくば市に実在する商業施設内に、インタラクティブな音環境のデザインを行い、研究対象現場における反復的な研究開発を行っている。民間企業との提携の元、実際の商業施設の中にスピーカーの天井裏配線やインターネット環境の導入をして実験の基礎環境を整えた。また、販売員がどのように接客をし、来客者がどのように購買をしているのかの民族誌調査を行い、販売員との信頼関係を築くと共に、商業施設の現状を深く理解した。更に、現場に馴染むセンサやスピーカーの製作・音の選定・配置方法などをすべて考慮したデザインを行い、それを商業施設に導入することで、来客者の動きはどのように変化するかということ深く観察している。すべての研究プロセスはつくば市の商業施設内で行われ、度重なる仮説の更新を行うことで、説得力あるデザインを行うことができる環境も完成している。

本論文は、商業空間における人間の購買行動研究にも大きく貢献しただけでなく、他の空間における人間の行動と音や光といった非物質素材の関与に関してそのデザインに関する基礎的な示唆を与えたことは高く評価できる。以上、審査の結果、本論文は博士(メディアデザイン学)の学位論文として十分な価値を有するものと認める。

審査経過

2013年2月22日、15:00-16:00 予備口頭試問審査会が協生館 C3S01 教室にて開催され、審査の結果合格した。予備口頭試問審査委員：奥出直人君、砂原秀樹君、石倉洋子君

2014年1月17日、18:30-19:50 博士論文公聴会が協生館 C3S01 教室にて開催された。同公聴会終了後、同教室で博士論文審査会が開催され、全会一致で合格を決した。なお、公聴会出席者は以下の通りであった：

博士論文審査委員	5名
来場者	約15名